



**ゆい**  
しっかり者。  
頼りない兄のフォロー役(?)



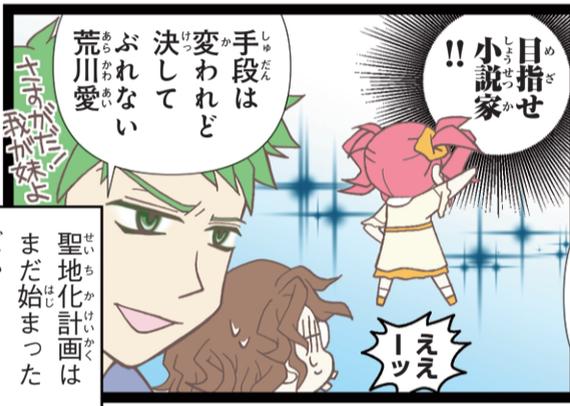
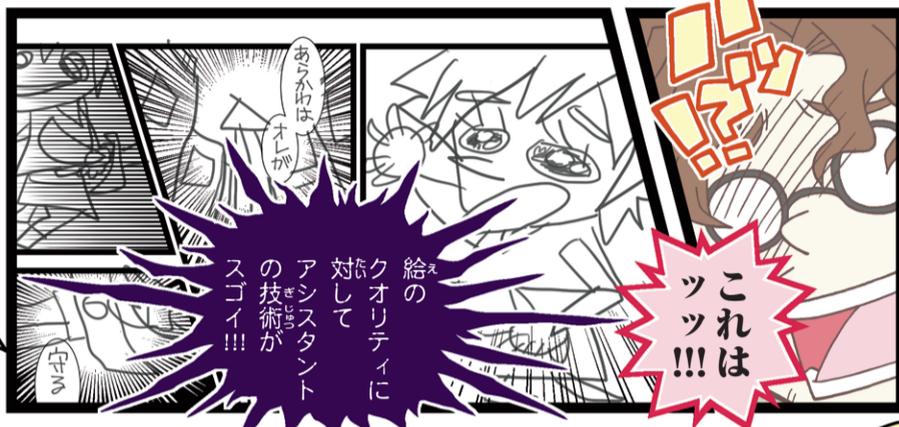
**ほくと**  
妹思いなゆいの兄。  
熱血漢でスポーツ万能



**裏のおじいちゃん**  
ゆいと仲良しの  
裏に住んでいるおじいちゃん

作・ガズキ伊藤

あらかわ少女☆ゆいちゃん



Topics

オンラインで  
川の手荒川まつりが  
開催されました

4月29日から5月9日までの11日間、「第35回川の手荒川まつり」が開催されました。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインでの開催になりました。特設サイトでは、区内の団体によるステージ動画の視聴や、交流のある都市の特産品購入などができ、そのほかにもミニゲームや抽選キャンペーンなど、実際の会場に訪れたような雰囲気を楽しむことができました。



▲ステージの様子

あらかわ  
今昔ものがたり  
日 [あらかわの歴史と伝説]

その130  
三河島の袈裟塚の耳無不動  
~小説の主人公になったお不動さん~

区役所の前、ビルが立ち並ぶ明治通り沿いに(荒川三丁目)、怖い顔のお不動さんが座っている。左耳が隠れていて見えないのが特徴だ。もとは仙光院(麿寺)の参道脇にあった袈裟塚(荒川二丁目付近)の上に置かれていたので、袈裟塚の耳無不動(区指定文化財)と呼ばれているんだ。江戸時代の宝暦2年(1752)に、仙光院の住職・光慧さんが村人のために建てた石仏で、台座が道標だったんだよ。

**小説の主人公はお不動さん** このお不動さんはちょっと人間っぽい仏様として江戸時代の小説に登場したんだよ。それを書いたのは、売れっ子作家で浮世絵師の山東京伝さん。お不動さんが有名だったので、絵入り小説『三河島御不動記』の主役に抜擢したんだ。なにに、どんなお話かって? ちょっとだけあらすじを教えちゃおう。

『寒い冬、山伏に置き去りにされたお不動さんが、火鉢を抱えて暮らしていた。ある日、火鉢の中の炭団(粉炭)の精が「おえん」という女に

【問合せ】荒川ふるさと文化館  
☎(3807)9234



姿を変えて現れ、お不動さんは「おえん」をお嫁さんに迎えた。「制吒迦童子」ちゃんと「矜羯羅童子」ちゃんという可愛い双子も生まれた。しかし、「おえん」はお不動さんに正体を見られてしまい、燃え上がる火焰に変身し立ち去ろうとする。悲しんだお不動さんは、いっそ地獄で一緒になろうと火焰になった「おえん」を背負ってさまよい歩き、いつの間にか三河島村(荒川区荒川付近)にたどりついた。お不動さんは村人に助けられ、村に安置されることになった。その後、よく願いが叶うと人気のお不動さんになったとさ』

耳無不動は、真赤な火焰を背負っているね。京伝さんはこれを「おえん」に見立てたのかもね。**耳無不動のご利益** 地元の人が大切に守ってきた袈裟塚の耳無不動には、今でも多くの人が訪れる。お参りすると耳の病気に効くと言われてるんだ。ご利益があったらお椀に穴を開けて納めるのが、昔からの習わしなんだって。みんなも江戸の歴史を伝えるお不動さんを訪ねてみてね。



袈裟塚の耳無不動